２　事業の概要と成果	
（１）　プロジェクト目標の達成度 （今期事業達成目標）	プロジェクト目標： 北ダッカ市ミルプール Ward 2 の対象地区においてごみ・衛生管理が改善し、女性と子どもを含む地区住民の生活環境が改善する。 本事業は「都市の貧困層居住地区において女性と子どもを含む地区住民にとって衛生的で健康的な生活ができるようになる」という上位目標を掲げ、3 年間にわたり活動をした。 最終年次である今期事業では、地区住民による「ごみ・衛生管理委員会」を編成し、ごみ収集の重要性や収集方法等について啓発活動を実施するとともに、同委員会の運営・監督のもと、住民の代表者が地区内の世帯ごみを手押し車等で収集し、一次収集場所（地区の外、ごみ収集車等による収集）まで運ぶ仕組みを形成した。また、一次収集場所に置いたごみが定期的に収集されるよう、ワールド・ビジョン及び同委員会が行政に働きかけ、ほとんどの地区で行政の収集サービスに接続されるようになった。終了時調査の結果、家庭のごみ捨て及び収集場所へのごみの排出を適切に行う世帯の割合は 80%と非常に高い結果が表れている。 また、地区住民の衛生行動改善を目指して、コミュニティと学校において、大人（男女）と子ども・青年を対象に啓発活動を実施した。啓発活動は、地域の文化・価値観に精通し一定の知識を習得した「地域衛生ファシリテーター」がきめ細やかに行った。同時に、地区内にある既存のトイレの補修（本事業 25 基、3 年間で 109 基）及び新設（本事業 8 基、3 年間で 77 基）及び地区の衛生面の重要課題であった排水溝の整備を行った。さらに月経衛生等女性と女子の衛生状態を改善するため女性専用の水浴び場を設置した。これにより、女性と子どもの衛生的なトイレや水浴び場へのアクセスは約 48%も増加した。 事業対象地である貧困層地区に散乱していたごみは減り、排水溝の設置により雨期であっても地区内に汚水が溢れ、浸透することはなくなり、生活環境は格段に改善された。年間を通じて、子どもが外で安全に遊ぶことができるようになり、安全に歩行し学校に通うことができるようになっている。 北ダッカ市ミルプール Ward 2 の対象地区においてごみ・衛生管理が改善し、女性と子どもを含む地区住民の生活環境が改善する。（3 年次であるため、3 年間のプロジェクト目標と同様）
（２）活動内容	<u>1. 対象地区の世帯レベル及び地区全体のごみ・衛生管理の強化</u> <u>1-1. 対象地区において住民主導のごみ・衛生管理委員会が機能する</u> ・「ごみ・衛生管理委員会」に対し、定期会合（6 回×10 組織）、能力強化ワークショップ（2 回 x10 組織）を実施した。 ・「ごみ・衛生管理委員会」に対し、住民主導のモニタリング方法についての研修を実施した。（3 回（1 日 x3 回）ｘ10 組織） ・「ごみ・衛生管理委員会」のメンバー（代表者各 5 名）が、自らの地区における活動の参考とするため、他対象地区を視察した。（2 回×10 組織） ・「ごみ・衛生管理委員会」代表者による代表者会議を開催した（3 回ｘ10 組織）。他対象地の視察や本事業の学びや事業終了後の計画等を共有した。 ・「ごみ・衛生管理委員会」による地域内外での啓発活動の実施を支援するため、啓発用教材を開発し、配布した。（内訳：冊子（パンフレット）500 セット、ポスター（ごみ処理について 1,000 枚、衛生行動について 1,000 枚）2,000 枚、卓上カレンダー（ごみ処理と衛生

	行動について）6,000 枚） ・地区内のごみ清掃キャンペーンを実施した。(2 回×10 箇所) ・世界清掃の日(World Cleanup Day)、世界手洗いの日(Global Hand Washing Day)に合わせて啓発活動を実施した。(1 日 x 2 回) ・ごみ・衛生管理委員会と「子ども衛生グループ」の代表者間における意見交換会合を実施し、4 日間で延べ 680 人が参加した。ごみ・衛生管理委員会に子どもたちの意見が直接反映される貴重な機会となった。 <u>1-2 対象地区におけるごみ収集システムが整備される</u> ・地区住民の代表や関係者を対象に、住民主体のごみ収集方法について研修を実施した。(6 回×2 グループ) ・住民主体のごみ収集に必要な資材を提供した。(全 10 居住地区) ・地方行政（北ダッカ市市役所清掃局担当官、Ward 評議員等)、対象地区で活動する他の NGO（DSK, BRAC, Habitat for Humanity Bangladesh, Good Neighbors、Solidarity International, UNDP, Islamic Relief, Dhaka Ahsania Mission、USPT(Unnayan O Shikkha Proshar Trust)、PWCSP 等)、対象地区の住民組織「水・衛生管理委員会」、学校関係者（教員)、宗教指導者等による連携促進を目的とした定期会合を開催した。(6 回、延べ 161 名) ・事業実施地域内に居住し、かつ希望する全世帯に家庭用ごみ箱を配布した。(1 個/世帯、計 500 個) <u>2. 対象地区の特に貧困/脆弱世帯に住む女性と子どもの衛生（月経衛生を含む）行動改善</u> <u>2-1 対象地区の特に貧困/脆弱世帯に住む女性と子どもの衛生行動に関する知識が向上する。</u> ・子ども衛生グループのオリエンテーションおよびトレーニング（2 回×24 グループ)、定期会合（6 回×24 グループ）を実施した。 ・プロジェクト・エンジニアのもと技術的観点から現場の確認・調整等を行う衛生設備建設ファシリテーター（1 名）を雇用し、適切且つ円滑な施設整備を行った。 ・地区住民や住民組織に対しごみ・衛生管理について日常的に啓発等を行う地域衛生ファシリテーター（最大 30 名/月）及びそのスーパーバイザー（2 名）を雇用し、能力強化としてリフレッシュ研修（1 回、3 日間)、脆弱層配慮研修（1 回、1 日間）と他地区の視察研修（1 回、ハザリバーグ地区で実施のごみ収集事業を視察）を実施した。また月次で定例会合（12 回）を行い、進捗や課題を共有した。 ・事業実施地域内に居住し、かつ希望する全世帯に手洗い設備を配布した。(1 個/世帯、計 4,950 世帯) <u>2-2 対象地区において適切な排水溝と衛生的なトイレが整備され、アクセスが可能となる</u> ・対象地区内の既存の壊れたトイレの新設および修繕を行い、衛生的なトイレを整備した。 新設：計 8 基 （内訳）1 室トイレ×8 基 補修：計 25 基（内訳）2 室トイレ×22 基、5 室トイレ 1 基、6 室トイレ 1 基、10 室トイレ 1 基 手すりの設置：計 75 基（1 年次と 2 年次に設置・修繕したトイレに設置。3 年次に新設・補修するトイレについては、手すりをあらかじめ設計に組み込んでいる) ・トイレの維持管理に関する利用者研修を実施した。(計 28 回 x 50 名

	（計画は 58 回 x15 名または 25 名だが、地域で活動を徹底できるように、追加の新設・修繕、および周辺の 1 年次と 2 年次の受益者を含め、1 回の人数を多くして実施した）、延べ 1,400 名が参加） ・地域の大工や希望する住民を対象として、トイレの維持管理に関する研修を実施した。（2 回、延べ 30 名） ・蓋つき排水溝（兼歩行路）および併設歩行路を以下の通り整備および補修した。 蓋つき排水溝：計 1,684ft 1'-6″ x 2'-0″規格（整備）：610ft 1'-3″ x 2'-0″規格（整備）：1,074ft 併設歩行路：計 650ft 幅 1ft 規格:計 90ft 幅 2ft 規格:計 340ft 幅 3ft 規格:計 220ft ・ 他の NGO（DSK）が行っているし尿汚泥の汲み取りサービスをコミュニティに紹介し、サービス依頼方法（連絡先や金額等）を事業スタッフがごみ・衛生管理委員会メンバーおよびトイレの利用者に伝授した。入り組んだ場所で汲み取りホースが届かないものについては、コミュニティにいる清掃者への依頼方法を伝授した。 <u>2-3 対象地区において住民の月経衛生に関する理解が深まり女性や女子が月経時にも利用できる女性にやさしい水浴び場へのアクセスが可能となる。</u> ・水浴び場の利用者を含む地区住民で形成される「水浴び場委員会」を設置し初回会合（1 回×10 組織）を実施した後、オリエンテーションおよびフォローアップ研修を実施した。（2 回×10 組織） ・男性や家族を対象に月経に関する啓発活動を実施した。（2 セッション/グループ x 12 グループ x 10 箇所、参加者 10 名/グループ（計 480 回、延べ 2,399 名が参加）） ・女性や女子を対象に月経に関する啓発活動を実施した。（2 セッション/グループ x 24 グループ x 10 箇所、参加者 10 名/グループ（計 960 回、延べ 4,800 名が参加）） ・女性と子どものための水浴び場を設置した。（1 室規格×10 基） ・様々な理由・事情から集団での啓発活動への参加が難しく、脆弱な状況にある対象者に対し家庭訪問を行った。（4 回×70 世帯） <u>2-4 対象地区近隣の学校において適切な衛生行動に関する生徒達の意識が向上する。</u> ・ 生徒の衛生行動等について学校と共有会合を実施した。（15 校×2 回） ・ 「学校水衛生グループ」に対してトレーニングを実施し、編成・再活性化を行った。なお本活動は事業変更承認申請書第 1 号の申請変更内容を含んでいる。（15 校 x 3 回、各校 1 組織、各 20 人で構成） ・ 各校での衛生活動に関するコンペやアートを使った啓発活動支援を行った（15 校 x 1 回）。小学校では衛生行動に関する絵画コンテスト、高校では作文コンテストを実施した。どちらも上位 3 名を教師と本事業スタッフによって選抜し、表彰した。 ・ 学校へ手洗い設備を提供した。（5 校×1 箇所） ・ 各校での月次清掃活動を支援した。（15 校 x 1 回）

	（事業全体に係る活動） ・　終了時調査を実施し、本事業の期待される成果について指標の測定を行った。 ・　以下の事業の記録・学びや成果の発信を行った。 ・学びのワークショップ　コミュニティレベル（参加者：地区住民、コミュニティ・リーダー）（1 回、100 名） ・学びのワークショップ　市レベル（参加者：北ダッカ市役所職員、清掃局 Ward2 担当者、在バングラデシュ日本国大使館、JICA、コミュニティ・リーダー、ワールド・ビジョン・バングラデシュ事業部長等）（1 回×50 名） ・名々やコミュニティの変化を記録した映像・情報素材の作成。3 年次の活動の様子を撮影し、約 5 分間の動画を作成した。作成した動画はインターネットを通じて発信できるよう準備中である。 ・　新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、マスク等を現地スタッフ（含ファシリテーター）、研修、会合、イベントの参加者全員に対して配布した。
（３）達成された成果	**１）期待される成果** 以下、ベースライン調査と同一の調査手法（無作為抽出調査および聞き取り）によって成果の達成について評価した結果である。 <u>【成果 1】対象地区の世帯レベル及び地区全体のごみ・衛生管理が強化される</u> ・指標 1-1：家庭のごみ捨て及び収集場所へのごみの排出を適切に行う世帯の割合が対象地区全世帯のうち 46～56%となる。(3 年次の目標：ベースライン値と比較し 20～30 ポイント増) **-結果-** **ベースライン調査結果：26.0%** **3 年次終了時調査結果：80.0%（54.0%ポイント増）** 目標値を達成した理由： ● 全てのごみ・衛生管理委員会が機能しており、家庭でのごみ捨て、収集場所へのごみの排出、定期的なごみ収集がなされるようになったため。ごみ・衛生管理委員会のメンバーは定期的にコミュニティを回り、ごみ処理について必要に応じて指導している。 ● 3 年間を通じ、子どもを含むコミュニティ全体を対象に会合や研修においてごみ処理の重要性や方法について繰り返し強調したことで、受益者がごみ処理の重要性を理解し、その方法を身に着け、実践できるようになったため。家庭内や地域において適切なごみ捨てができるようになった。 ・指標 1-2：機能している（※）ごみ・衛生管理委員会の割合が、全 10 組織のうち 100%となる。(3 年次の目標：ベースライン値と比較し 100 ポイント増) ※ごみ・衛生管理委員会が、住民の参加を得て地区内のごみ・衛生管理システムを構築し適切に運営管理している状態。 **-結果-** **ベースライン調査結果：0.0%**

	3 年次終了次調査結果：100.0%(100.0%ポイント増) 目標値を達成した理由： ● 全ての「ごみ・衛生管理委員会」に対し予定通り研修やワークショップ等が実施され、同委員会メンバーの責任感が醸成され、また役割を果たすためのスキルが向上し、トイレおよび排水溝等の衛生設備の設置場所の選定や維持管理、清掃キャンペーン等において中心的な役割を果たすことができるようになったため。 ● コミュニティ共用の施設（トイレ、排水溝、水浴び場等）が整備され、ごみ収集活動が定期的になされるようになり、それらの維持管理に責任がある「ごみ・衛生管理委員会」の重要性も比例して高まり、住民がより協力的になったため。 ● 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、手洗い等適切な衛生行動への関心の高まりが見られ、同委員会メンバーの啓発活動等への参加度や貢献が高まったため。 <u>【成果 2】対象地区の特に貧困/脆弱世帯に住む女性と子どもの衛生（月経衛生を含む）行動が改善する</u> ・指標 2-1：衛生的なトイレ（月経衛生設備含む）や水浴び場を使用する女性と子どもの割合が対象地区の女性と子どものうち以下のとおりとなる。 3 年次の目標：いずれもベースライン値と比較し 30～40 ポイント増 - 女性：64.6%～74.6% - 子ども:61.5%～71.5% **-結果-** **ベースライン調査結果：女性 34.6%、子ども 31.5%** **3 年次終了次調査結果：女性 83.3%(48.7%ポイント増)、** **子ども 80.0%(48.5%ポイント増)** 目標値を達成した理由： 衛生的なトイレや水浴び場について、予定通りの投入を実施することができたため。 ・指標 2-2：適切な手洗い行動（※）を行う女性と子どもの割合が対象地区の女性と子どものうち以下のとおりとなる。 3 年次の目標：いずれもベースライン値と比較し 35～40 ポイント増 - 女性：58.0%～63.0% - 子ども:71.4%～76.4% ※重要なタイミング（トイレ使用後、食事前等）での手洗い実施 **-結果-** **ベースライン調査結果：女性 23.0%、子ども 36.4%** **3 年次終了次調査結果：女性 83.0%（60.0%ポイント増）、** **子ども 67.7%（31.3%ポイント増）** 目標値を達成した理由： ● 月経に関する啓発活動やキャンペーン活動、「子ども衛生グループ」の活動等を通して啓発活動を実施ことができたため。

	● 前期事業に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行による影響により、手洗い等適切な衛生行動への関心の高まりが見られ、行動変容が促されたため。 ● 3 年間の事業活動を通じて、対象地区内のほぼ全世帯に対して家庭用手洗い設備（バケツ、タンク用の置台、洗面器、蛇口）を提供し、加えてほぼ全ての子どもたちに対して衛生備品セットも配布することができたため。 ● 特に子ども衛生グループは手洗いに関する啓発活動を対象の貧困層居住地区内で実施し、子どもたち自身のみならず、地域の大人に対してもアピールできたため。 子どもの指標について、目標値を達成できなかった理由： ● 重要なタイミングとして 3 回（トイレ使用後、食事前、調理前）の結果の平均値としたが、子どもは食事の準備に参与しない場合があり、「調理前」のタイミングについては無回答または「手洗いを実施した」という回答が少なかったため、全体的にこの指標の結果が低くなったと考えられる。 ・指標 2-3：改善された排水溝（兼歩行路）を使用する住民の割合が対象地区全人口のうち 56.0%～66.0%となる。(3 年次の目標：ベースライン値と比較し 30～40 ポイント増) **-結果-** **ベースライン調査結果：26.0%** **3 年次終了次調査結果：90.0%（64.0%ポイント増）** 目標値を達成できた理由： 排水溝（兼歩行路）について、予定通りの投入を実施することができたため。 **２）持続可能な開発目標（ＳＤＧs）に該当する目標における成果** 本事業では SDGs 内の項目では、以下の 4 つの目標に貢献したと考える。 <u>①目標１．あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる</u> ・ 全 10 対象居住地区においてごみ収集システムが機能するようになり、衛生的なトイレや水浴び場への女性と子どものアクセスがともに改善し、貧困層及び脆弱層の男女の基礎的サービスへのアクセス確保に貢献した。(1.4) <u>②目標３．あらゆる年齢のすべての名々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</u> ・ 本事業では衛生的なトイレの新設および補修、蓋つきの排水溝の設置、コミュニティへのごみ収集に必要な資材の供与、家庭用ごみ箱の配布等を実施した。これらにより、廃棄物や汚水を原因とした妊産婦と子どもの伝染病への罹患数やそれに伴う死亡数の低減に寄与し得ると考える。(3.1, 3.2, 3.3) ・ 女性および男性に対して月経についての啓発活動を実施し、性と生殖に関する正しい知識と行政サービス（医療）の活用方法を周知し、性と生殖に関する保健サービスへのアクセス向上に寄与した。(3.7)

	③目標５．ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う ・ 全てのごみ・衛生管理委員会、子ども衛生グループ、水浴び場委員会の構成員は男女両方であり、平等に研修に参加し能力強化の機会を得、会長が女性であるグループもある。バングラデシュにおいて女性は社会的立場が弱いが、出席や発言を担保することで、ジェンダー平等の達成に寄与した。（5.1） ・ 女性・女子専用で、月経の時期でも安心して利用できる、女性と女子に優しい水浴び場を設置した。水浴び場は性暴力等が発生しやすい場所であり、女性・女子専用の水浴び場はジェンダーに基づく暴力への予防が期待できる。(5.1) ・ 月経についての啓発活動を女性のみならず、男性にも実施し、月経に関する差別、偏見、誤解を減らし、科学的に正しく理解されるように活動した。(5.1) ④目標６．すべての人々の水と衛生利用可能性と持続可能な管理を確保する。 ・ 本事業では衛生的なトイレの新設および補修、蓋つきの排水溝の設置、コミュニティへのごみ収集に必要な資材の提供、ごみ箱の配布等を実施した。(6.2、6.3) ・ ごみ・衛生管理委員会、子ども衛生グループ、水浴び場委員会という 3 種類の委員会を設置し、能力強化を実施するとともに、実践や機能化を促した。(6.b)
（４）持続発展性	1)　本事業で住民による「ごみ・衛生管理委員会」を組織し、研修や実地指導を通じ能力強化を行い、ごみ・衛生管理における地域住民の意識向上と協力促進に取り組んだ。その結果、同委員会がごみ収集スケジュール管理や料金徴収（ごみ収集者への支払いのため）を行うとともに、定期的に地域を巡回し、路上の清掃を促したり、ポイ捨てをしないよう注意喚起を行ったりしている。加えて、同委員会は、各対象地区のトイレや水浴び場についても管理責任を持ち、地域を巡回し、清掃状態の確認や指導を定期的かつ自主的に行っている。トイレの清掃は利用者による当番制となっているが、清掃スケジュールを貼り出している場合も多く見られる。なお、修理や汲み取り等維持管理にかかる費用は利用者が負担するが、その集金方法についてはそれぞれの「ごみ・衛生管理委員会」の監督のもと、トイレごとに決められている。 　本事業最後の定期会合では、課題や今後の計画について考え、他地域の委員会や住民の前で発表してもらい、継続的な維持管理へのコミットメントを促した。全ての委員会メンバーが事業終了後も地域の中で同様の活動を継続していく意思を示しており、事業効果の持続が期待できる。 2)　家庭およびコミュニティのごみの運搬・排出について、世帯レベルではごみ箱を利用して分別・排出されるようになり、コミュニティレベルでは定期的なごみ収集と運搬・排出がなされるようになった。また、排出されたごみは北ダッカ市により収集されるようになり、コミュニティ内のごみが持続的に運搬・排出されるようになった。この成果に至った背景として、家庭・コミュニティレベルでの啓発活動が功を奏したとともに、北ダッカ市市役所の廃棄物処理局の責任者や清掃局担当者と協力関係が構築され、同市のごみ収集システムとの接続が可能となったことが挙げられる。上記の通り、日

	本政府の長年にわたる支援によって確立されたダッカのごみ収集体系に接続し、対象地区の住民は公共サービスの恩恵を享受できるようになった。 　なお、事業対象地には、大規模な道路工事のため行政のごみ収集車が入ることができない地域がわずかながらある。しかし、これらの場所においても、最も近い収集ポイントまで運搬するか、居住地区外にごみ集積場を設定しコミュニティからごみを排出している。それと同時に改善を求め、北ダッカ市の担当者に対して住民からのごみ収集への要望を取りまとめ、提出した。 3) トイレの維持管理に関し、住民の知識・理解の向上と併せ、現実的な解決策としてし尿汚泥の汲み取りサービスを住民に紹介し、接続を確保した。既存のトイレの維持管理のため、自ら集金し、し尿汚泥の汲み取りサービスの利用を始めた住民もいる。これによりトイレのセプティックタンク（腐敗槽）が短期間に満杯になり放置されてしまうリスクを回避し、長期利用が可能となる。また、継続的かつ適切な処理により、地区内に滞留するし尿汚泥の減少、および中長期的に地区内の糞便汚染状況の改善を促すことが可能となる。さらに、対象地区内の住民（大工等の多少の経験を持つ者）を対象に修理方法等についての研修を実施し、簡単な修理は自ら行うことができるようになった。 4) ごみ・衛生管理委員会等の委員だけではなく、地域衛生ボランティアを介して地区住民全体を対象とした啓発活動を実施したことにより、住民全体が問題意識を持って自ら住環境の改善に取り組むようになった。蓋付排水溝等の設置により、地区内がきれいになっていく様子を目の当たりにし、この状態を維持し、またさらに住みやすい環境にすべく、ごみ溜めのようになっていたコミュニティ内の特定箇所を自ら清掃するようになった住民もいる。さらに、子ども衛生グループや学校での活動を通じて、子ども自身が積極的に清掃活動を行い、親や近隣の大人に適切なごみ捨てや手洗いを促す等、家庭や地域の変革を促す者となっている。 5) 事業対象地の一部では 2012 年より、ワールド・ビジョンの自己資金で 17 年計画の地域開発プログラム（AP）を実施しており、本事業終了後も、その AP が本事業の効果が広く浸透し、事業対象地のごみ・衛生管理が確実に改善されるよう定期的にモニタリングを続けている。このモニタリングの中で、さらに支援が必要と認められた場合は、AP が持続性や自立性に配慮した補完的な支援を検討する予定である。

３　その他	
（１）固定資産譲渡先	譲渡先（全て事業対象地内）と協議および覚書を結んだ上で、以下の固定資産について譲渡・引き渡しを行った。なお、固定資産の一部を新規事業で使用する点については、事前に民間援助連携室より承認を得ている。

固定資産名	数量	譲渡先
ノートPC （コンピューター）	8	以下８カ所に各１台 ・ Ward2 事務所 ・ Nahar Academy High School ・ Rashid Adorsho High School ・ Shahidbag Govt. School ・ Dhaka Holy Flower School ・ The New Heritage School ・ Pallabi Preparatory High School ・ Dr. Mohammad Shahidullah Model High School
テーブル	2	新規事業（コックスバザール県ラム郡）にて使用
椅子	7	新規事業（コックスバザール県ラム郡）にて使用
キャビネット	1	新規事業（コックスバザール県ラム郡）にて使用
扇風機	6	新規事業（コックスバザール県ラム郡）にて使用
プリンター	1	Nahar Academy High School
デジタルカメラ	1	Ward2 事務所
コピー機	1	Rashid Adorsho High School
プロジェクター	1	Nahar Academy High School
プロジェクター用スクリーン	1	Nahar Academy High School
スキャナー	1	Dhaka Holy Flower School

（２）特記事項	特になし

完了報告書記載日：２０２３年６月３０日
特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長　小西 孝蔵
☑団体としての最終版であることを確認済み

【添付書類】
① 日本ＮＧＯ連携無償資金収支表（様式４－a）
② 日本ＮＧＯ連携無償資金使用明細書（様式４－b）
③ 人件費実績表（様式４－ｃ）
④ 一般管理費等　支出集計表（様式４－ｄ）
⑤ 事業内容、事業の成果に関する写真（様式４－e）
⑥ 外部調査報告書
⑦ 残余金発生の理由書（該当する場合）